

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 12 月 8日

【評価実施概要】

事業所番号	0173600719		
法人名	株式会社 ふるさとコミュニティ		
事業所名	グループホーム ふるさと		
所在地	苫小牧市豊川町2丁目1番2号 (電 話) 0144-76-0351		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年11月30日	評価確定日	平成22年1月29日

【情報提供票より】 (平成 21 年11月 6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 11月 25日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 12人, 非常勤 6人, 常勤換算	12.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り	
	3 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 18,000 円 暖房費(10~4月) 8,000 円	
敷 金	有 (円) ・ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり		900 円	

(4) 利用者の概要 (11月30日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護 1	2 名	要介護 2	3 名		
要介護 3	3 名	要介護 4	6 名		
要介護 5	4 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	74 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	苫仁会神谷病院、豊巻歯科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

こもればの道の山側に建つ当ホームは、バイパス通りの車音も木々によって静められ、遊歩道で散歩する方々と声を掛け合い交流することができます。近くには、生協、ホームマックがあり、散歩をしながら買物を楽しめる距離にあります。管理者は、利用者本位の暮らしを支えるために重要なケアサービスを常に点検し、振り返りや方針の統一に力を注ぎ、日々職員を指導している様子が伺えます。運営推進会議では学習会を取り入れ、なかでも口腔ケア講座で、メンバーと職員が共に学び、内容を運営に反映させています。各種ボランティア団体の受け入れや研修先となる等、利用者が安心して地域の方々と共に生きることを支え、地域にも福祉資源として還元しているホームです。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 理念については、今年職員全員で検討して理念を纏め上げ、運営推進会議も積極的に取り組み内容の充実を図っています。防災体制については、継続して検討が進められています。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ユニット毎に、職員全員がシート記入を行ない自己評価に取り組み、管理者が纏め上げています。この機会を職員の気づき、改善に向けた取り組みに繋げています。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は定期的開催し、運営やケアサービスの報告はもとより、反省点、改善点などが話し合わせ、活発な意見交換を行なっています。また、町内の方々も参加し、職員研修も兼ねた口腔ケア講座などの議題(学習会)も加わるなど、行政や地域の協力をいただきながら会議を推進しています。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 年3回ユニットだよりを発行しています。利用者の充実した生活環境作りや支援に活かすため、家族の意見、要望、苦情が、その都度運営に反映されるよう、表出された内容を丁寧に検討を行ない対応しています。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、町内会のお祭りや盆踊りに参加しています。「あじさいの会」の踊りのボランティア、月2回の傾聴ボランティアの受け入れなどを行ない、ホーム内で地域の方々との交流を促進しています。こもればの道での地域の方々とふれ合いや地元商店街への買物など、一つひとつの場面で利用者の生活が豊かになるよう交流や連携に取り組んでいます。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今年度、ホーム独自の地域密着型サービス理念、運営方針を職員全員で見直し、検討を加え新たに作成して掲げられています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関ホールなどホーム内に掲示しています。ユニット会議での話し合いや日々の支援の取り組み状況を考察し、管理者、職員間で常に意識しながら理念を共有しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会のお祭りや盆踊りに参加しています。「あじさいの会」ボランティアや傾聴ボランティアの訪問を受け入れ、ホーム内で多くの方々との交流が行なわれています。こもれびの道での地域住民の方々とのふれ合いや地元商店街への買物など、交流することを大切にしています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員がシートを記入して取り組み、管理者が纏めあげ、職員の気づき、振り返りに役立てています。外部評価調査時にあつては、話し合いを通じて課題とするべき事項を確認し、高い目標で取り組まれる姿勢が窺えます。		

苫小牧市 グループホーム ふるさと

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を、定期的に行ない、報告や反省、地域の問題やホームでの検討事項など、今後に向けた取り組み、改善点等、職員研修も兼ねた口腔ケアの議題も入れた取り組みをしています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者が出席するグループホーム連絡会への参加や研修において、連携を図っています。また、案件について意見を仰ぐために行政の窓口に出向いたり、電話相談などを行っています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年に3回ユニット便りを作成し発行しています。家族の訪問時には利用者の生活の様子や心身の状況を報告し、来訪の少ない方、遠方の方には随時電話で報告をしています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や要望、苦情を真摯に受け止め、機会を捉えて話し合える関係作りに努めています。表出された意見は速やかに会議を開き職員全員で検討して、運営に反映させています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は比較的少なく、職員全員でケアの一貫性とダメージ緩和の取り組みを行なっています。また、緊急的な離職や全員が出席する会議を行なう場合に対応するため、協力いただける介護士を確保しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苫小牧グループホーム連絡会、北海道グループホーム協議会などのネットワークをベースにした外部研修を中心として、積極的な受講が行なわれています。支援について振り返り、考えることを大切にしており、働きながら勉強する内部研修も確保しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	苫小牧グループホーム連絡会や北海道グループホーム協議会へ加入し、ネットワーク内での交流や連携を図っています。他のホーム職員の見学研修として、当ホームが受け入れ、同業者との交流を始めています。	○	他を知る事による自己サービスの気づきを得ることも重要です。職員のシフト調整も困難を有すと察しますが、職員が相互に訪問しあえる見学研修など、お互いに共通の目的を持ちながら、同業者との連携を図る取り組みを今後も期待します。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の見学やできる限り利用者と同伴の見学を勧め、短時間でもホームで過ごしていただき、馴染んでいただけるよう、家族の協力をいただきながら支援しています。病院や施設など利用者の居する先に管理者が訪問するなど、顔見知りとなって安心感をもっていただけるよう配慮しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として敬意を持ち接しながら、出来ることはしていただき、利用者との生活場面の共有の中で喜怒哀楽に関心を寄せ、思いを共感して支え合う様子が窺えます。安心の出来る関係作りや一人ひとりの状況に合わせてながら、共に過ごせる時間が築かれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>					
<p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の思いを大切にしながら、体験談や生活歴などの話を丁寧に聴いています。重度化した利用者へも日々の関わりの中や声かけにより把握に努め、意思の疎通に困難をきたす時は家族に相談しながら、思いや意向の把握や検討をしています。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>1カ月に1回のユニット会議、ケアカンファレンスを開催し、医療関係者の助言を参考にしながら、利用者の状況に合った支援策を検討しています。利用者、家族の意見や意向を取り入れた利用者本位の介護計画が作成されています。</p>		
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月のユニットカンファレンスでの職員間の意見交換や6カ月に一度のモニタリングを行ない、利用者の状況を検討しています。介護計画の見直しでは、実施状況と課題分析が分かりやすいように一覧シートを用いて纏めています。利用者の状態変化に合わせた見直しも随時されています。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>買物や病院受診、外出支援、入退居に関わる支援など、利用者や家族の意向や希望にできるだけ沿えるよう柔軟に支援しています。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関への通院や往診のほか、利用者のかかりつけ医の受診支援や歯科、皮膚科の往診体制を確保しています。看護職員が中心となって日常の健康管理を支援しており、健康管理日誌を用いて職員間で情報を共有しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時に、重度化し看取りの必要が生じた場合などの対応指針を明記しています。今後の方針については、家族、主治医とも相談、意思確認を行ないながら、重度化、終末期の支援が行なわれています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりを尊重し、自然なさりげない対応がされており、職員のプライバシーを尊重した姿勢が見られ、記録等も記載方法に留意されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしており、日々のゆったりとした暮らしの中で、個別性の気づきを感じながら支援がされています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と話し合いながら、食材の買出し、後かたづけと利用者の能力に合わせた支援が行なわれています。行事食や外食をはじめ、ピクニック気分ですぐで食事をするなど、食事に変化をつけながら楽しんでいます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせ、毎日でも可能な入浴支援がされ、夜間入浴も対応しています。入浴の声かけも一人ひとりに応じて工夫されています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりが、役割を持つことを大切にしています。手芸、貼り絵などの趣味や出来る範囲で家事を一緒に行ない、買物、散歩など希望に添った支援がされています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は毎日行なうようにしており、こもればの道、公園へ出かけています。利用者の希望を取り入れたドライブや名所めぐり、買物なども利用者の楽しみごとの一つとなるよう配慮され支援しています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、鍵をかけることの利用者への弊害を理解し、夜間帯のみ防犯上の理由で玄関を施錠しています。また、重度化の利用者の安全を確保するため、居室に利用者により優しい音色を定めたオルゴールセンサーを設置していますが、利用者には気づかれない工夫が施されています。		

苫小牧市 グループホーム ふるさと

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いの下で避難訓練は行なわれていますが、夜間想定 of 訓練は未実施の状況です。災害時に地域住民の方々の協力がいただけるよう、運営推進会議を通じて働きかけをしていますが、具体的な内容については今後の課題としています。	○	運営推進会議では地域防災の視点に立ち、協力体制を含め、どのような対策が必要であるかが課題となっています。今後、その協議を進め、また、住民の方々の参加をいただきながら、実践的な夜間想定訓練が実施されるよう期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量が、毎日チェック表に記録され、職員が共有できるようになっており、過不足が発生しないよう、一人ひとりに合わせた支援がされています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体が広い共用空間で、リビングダイニングにはテーブルセットのほかソファを配置し、団欒の場や一人で過ごす場所も確保され、利用者本位の工夫がされています。季節感を醸し出す装飾や利用者手作りの作品や思い出の写真を掲示して、ソフト面での温もりを演出しています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や馴染みの物品や家具が持ち込まれ、安心して過ごせるよう家族にも協力をいただいています。利用者の心身の状況に応じて、使い勝手のよい収納や配置を支援し、居心地の良い工夫がされています。		

※ は、重点項目。